

平成 29 年 12 月 5 日 第 3 回地球温暖化対策実行計画検討部会での意見要旨

質問・意見	市の考え方
事業者アンケートについて、前回は無作為抽出で 200 社中 93 社の回答があり、回答率は 46.5%となっている。今回、地球温暖化対策協議会の会員を対象にアンケートを実施したにも関わらず回答率が 40%となっており、前回より低くなっている。何か事務局として理由を把握しているのか。	事務局としても前回より回答率が高くなると予想していた。メーリングリストなどでアンケートの呼びかけを行ったが、協議会の総会時点で会員の皆様に周知が出来ていれば、もう少し回答率が上がっていたのではないかと考えられる。
現在、枚方市内でカーシェアリングをされている事業者は複数あるのか。	複数の事業者が枚方市内でカーシェアリングに取り組んでいる。
枚方市職員の内、マイカー通勤をしている職員はどの程度おられるのか。	基本的に市役所で職員用の駐車場というものは用意していないので、公共交通機関を利用している職員が多いが、マイカー通勤の方もおられる。
職員に対して交通費を支給しているが、電車通勤等を申請しているものがマイカー通勤をすることがないよう、厳しくチェックをしているのか。	各課の所属長が年に 2 回、職員の通勤方法の確認を行っており、電車通勤等を申請している職員の定期券のチェックを行っている。
細かいことではあるが、参考資料 1-1 の 3 ページの割合を足すと、101%になる。四捨五入の関係であると、注釈を入れておくべきではないか。	修正させていただく。
公共交通機関の活用について考察すると、京阪電車や JR も重要な交通機関であるが、枚方市内という点では京阪バスが非常に重要な交通機関であると感じる。そのため、京阪バスと市が連携し、環境に対する取り組みを行っていくということを検討してもよいのではないか。今回、データとして取りまとめてもらったアンケート結果を基にし、検討を行っていくことが重要である。	今回のアンケート結果については、今後の施策を検討する際に活用していく。また、土木部局では京阪バスと連携し、バス乗ってスタンプラリーというイベントを実施し、実際にバスを利用してもらうことで、今後の利用のきっかけづくりをさせていただいている。
実際に市民の方から、バスと電車の連絡が悪いので、自家用車を利用してしまおうという話を聞いたことがある。そのような点も含めて、協議していただければと思う。	いただいたご意見について、担当部局にも情報共有させていただく。
4 つの基本方針が出されている表の中で、温暖化対策に関するポータルサイトの作成による情報発信が 1 と 2 にしか記載されていないが、これについては 1、2、3、4 のトータルで情報集約していただければと思う。	ご意見を踏まえ、修正させていただく。
参考資料 3 の CO ₂ の単位が万 t-CO ₂ になっており、実際には削減効果があっても単位の関係でゼロに計上されているものもあるので、修正してみてもどうか。	
基本方針ごとに取り組みを記載されているが、実際にその取り組みを推進することで CO ₂ がどれだけ削減できるかの目安を記載できれば、市民や事業者の頑張りが見えるのではないかと感じる。	検討させていただく。
基本方針 2 の中で電力消費量を 7%減という大きな指標を立てているが、どのような考えで設定したのか。	ここ数年のトレンドを見て、同じ比率で電力使用量が減少すると仮定して指標を設定した。
低炭素化につながるものとして、改修の際に高効率機器の導入を市だけでなく事業者、市民にも推進いただけないかと思う。市で予算をつけることが難しいということなら、国や府の補助制度の活用や周知に取り組むという手法もある。	今後作成するポータルサイトにおいて、普及啓発を積極的に行う。

質問・意見	市の考え方
建築物省エネ法の運用について、具体的にはどのような取り組みを行うのか。	建築物省エネ法の運用の権限が市にあるので、適切に運用していくことにより省エネ建築物の増加につながると考えている。
行政の予算の話もあり補助金を出すことは難しいところもあるので、例えば他市で取り組まれている優良な建築物を建てられている事業者を市長から表彰するような取り組みを検討してはいかがか。	検討させていただく。
新たに取り組むカーシェアリングの導入の促進について、事業概要を見ると「カーシェアリングを共同住宅へ導入した場合の駐車場設置数の規制緩和を検討します。」とあるが、規制緩和とは台数を増やすという意味なのか、減らすという意味なのかどちらの意味か。	カーシェアリングを導入した場合は、駐車場の設置台数を通常より減らしてもよいという意味である。誤解を招く表現になるので、文言修正を行いたい。
市民による省エネルギー・省 CO ₂ 活動の推進に関し、国では COOL CHOICE の推進事業に対し補助金を出している。今後、枚方市では国の補助金を活用し、普及啓発を行うお考えはお持ちか。	COOL CHOICE の補助金については、以前から本市でも応募の検討をしているところである。改定計画にも記載している市民参加型の普及啓発イベントに補助金が活用できるということであれば、検討したい。
生態系変化のモニタリングの中に、特定外来生物の防除とあるが、事業概要を見るとアライグマの防除のことが記載されている。アライグマは温暖化の影響で入ってきたわけではないので、少し話を広げすぎではないか。	もう一度、整理させていただく
委員から様々なご意見をいただいたが、どのように反映させていくのか。	今回の資料はタイトルと施策を書かせていただいているだけになっている。実際に計画に記載する際には文章の中に具体的な中身を記載することになるので、その中でいただいた意見を盛り込めるようにしたい。
資料 3 の 6 ページの下部に、今回新たに取り組むポータルサイトに関する記載をしてもよいのではないか。	検討させていただきます。
同じく 6 ページ目に基本方針ごとの指標を記載されているが、基本方針 3 の低炭素化につながる環境整備の推進に対し、自然保護啓発イベントの参加者数というのが少し違和感を感じる。この指標を設定した経緯を教えてください。	今回挙げさせていただいた指標は、環境基本計画などで挙げさせていただいているものをベースに検討させていただいたが、基本方針 3 については、うまく合致するものがなかったため、自然保護啓発イベントの参加者数ということにさせていただきました。